

# 明治期に岸和田で発行された新聞

岸和田で明治時代に発行された新聞は以下の 6 紙とされています。残存紙が極端に少ないため不明の部分も多いのですが、今回は完全な形で保存されていた 3 紙「岸和田新聞」「岸和田実業新聞」「白水新報」の 11 日分の第 1 面と内面の複写 2 面を展示します。

「白水新聞」寺田兵次郎（筆名・花外）が堺市から岸和田に移り明治 34 年頃月刊タブロイド版で創刊したとされる。現存する紙面が確認できていないので詳細は不明。創刊を明治 30 年とする説もあります。

「岸和田新聞」明治 33 年 9 月創刊か

発行：岸和田新聞社 発行・編集者：林 音治郎、羽田彌吉、太田 謙  
発行所の住所が岸和田北 23 番邸→岸和田北 251 番邸→岸和田北 50 番邸、明治 36 年には岸和田北 73 番屋敷に移り、編集発行人やタイトルロゴも変更されています。

「岸和田実業新聞」明治 36 年 1 月創刊か

発行：岸和田実業新聞社 発行・編集者：中尾 閑、岡 元、加藤郭然、堀 茂平  
発行所の住所が岸和田北 73 番邸で岸和田新聞社の最後の住所と同じである。寺田甚与茂に誘われて「白水新聞」の寺田兵次郎が主筆を務めたとされるが「白水新聞」と「岸和田新聞」が合流して「岸和田実業新聞」になったとも考えられます。後に販路を広げるため紙名を「和泉実業新聞」に変更しています。

「和泉新聞」明治 36 年 4 月頃創刊か 当初は月 3 回発行

発行：和泉新聞社 発行・編集者：日野安太郎  
発行所の住所が岸和田並松 78 番屋敷

「白水新報」明治 37 年 9 月創刊 月 3 回発行

発行：白水新報社 発行・編集者：阪影入司、堀 茂平  
住所は岸和田濱町 72 番屋敷

「南海新聞」明治 44 年頃創刊

発行：南海新聞社 発行・編集者：池沢源治郎、原静村  
発行所の住所は並松町→筋海町 14 番地→沼町 185 番地→別所町 390 番地と移る。

「朝日新聞」に明治 16 年 2 月 27 日～から連載された新聞小説「椿説打岸波」（国立国会図書館所蔵）と明治 16 年 3 月 17 日～から連載された新聞小説「昔譚花散里」（国立国会図書館所蔵）を複写して展示します。また明治 16 年に駿々堂本店から出版された「椿説打岸波 第一部」（国立国会図書館所蔵）の複写も展観します。両者は岸和田藩のお家騒動を扱った小説で連載開始後旧岸和田藩士の連載中止運動によって連載を 13 回で中断、改題し連載を始めた「昔譚花散里」も 4 回で中断されました。掲載停止の要求に応じなかったのかで 16 年 3 月 31 日朝日新聞編集署名人陶良平は禁固五ヶ月罰金十五円に科せられ、当時世間を賑わしました。今ではこのことを知る人も少なく、今回展示させていただきます。

併せて「朝日新聞」創刊号 明治 12 年 1 月 25 日発行もご覧頂きます。